

日本のプロコーチ宣言第1号 榎本日出夫 (日立戸)

私のバスケット狂書

その (15)

昭和五十年に入つてから、私は、スタートで活躍していた、ガードの奥、センターの奥、という、チームにとつて私の、バスケットをやるうえに不可欠の二人を要するというかたちで送り出さなければならぬ、また私にとって大きな試練の場になされた。

それというのは、四十九年度は前号で述べたようにチーム作りをしてきたものの、実戦ではやはりうまくいかず、日本リーグでためなら日本リーグにはなんとかが「本物」になつてはと考へ、練習をつま、チームとして最高のコンディションで神戸へ出かけたものの、こゝではシューターの命脈が第一戦の30秒のうちに足首を挫いてしまひ、決勝リーグはならぬと

主力の卒業で転機に

二段構えのチーム作り進む

選手全員の役割設定へ

や福島の戦力は欲しい。

しかし約半の年間は、そのいふと、これに代つて、もうひとつ選んだバスケットを考へて、その方が自分のためにもチームの進歩のためにも多少「優勝」という文字から遠ざかるかも知れないが、新陳代謝

そのうち、過去のゲームのVTRやスコアシートなどをかき出して、いろいろと、たまたま、センタープレイヤーやゲームメイ、その方がいなくても他、チームはゲームをまともにする。

きり出さなければ、その部分を選手にどう割りあてていくか、というところ、その部分については、数年前、五本、十本、百本、千本に決めた。

そして、二段構えにして、そういふチームを築いて、立派なチームを築く。

ガードの仕事は外側で、能力を伸ばすには、別に、そんなに悩まなくていいのではな

① センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

② センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

③ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

④ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

⑤ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

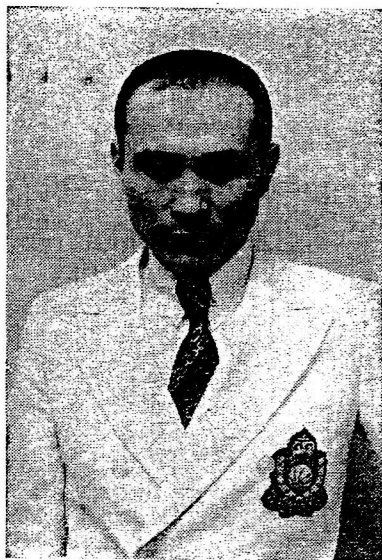
⑥ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

⑦ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

⑧ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

⑨ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。

⑩ センターの得失点を、と、シートに書いて、つづきませう。



榎本日出夫  
武蔵中学(東京)、武蔵高校(同)、武蔵大学(同)を卒業、現職、女子実業団チームの日立戸コーチ、昭和十六年七月日生まれ、現住所、横浜市戸塚区舞岡町二二一、電話、〇四五(八三)二七〇九番。

地上でのせりあい技術追求

前号までのあらすじ

十年前のある夜、杉野短大からコーチ依頼の電話を受け、なにげなく引き受けたことが私の人生をかえた。その後、先輩と後輩のすれ違いもあり、日立戸隊を築くようになったが、この時、さやらの「プロコーチ」の雑誌をあげ「バスケットでメン」を食ひ、決心を固めた。色々悩み、苦悶した末、とうとう日本リーグ入りを果たしたが、勝つては、一時たまたまは勝つてしまった。しかし、結局、もう一度日本一の座を目指して挑戦する決心を固め、半信半疑、取り組む選手全員の「うさぎ」をこなし、そして、第二段階として、基礎練習の進め方に入り努力を凝らした。

BASKET BALL IS MY LIFE